

萩ジオパーク：笠山エリア

笠山（112m）は萩の最も若い火山である。笠山という名前は、「市女笠」と呼ばれるつばの広い笠に似ていることに由来している。約 1 万 1 千年前、大噴火によって溶岩が広がり、台地が形成された。それから約 2,200 年後、火砕片の噴火によって頂上にクレーターのある円錐形のスコリアが形成され、7000 年前には海面が上昇して島となった。波の動きによって徐々に砂州ができ、丘（後に笠山として知られるようになる）と本土を再接続した。

笠山は萩周辺の 50 の火山からなる阿武火山群の火山の一つである。湾の向こうに見える平たい頂部の島々は、同じ火山群の海底火山の先端である。しかし、阿武火山群は一度の噴火で形成されたという珍しいものである。

山頂の笠山展望台から火口の中へ歩いて下ることができる。笠山の南麓には塩水の明神池がある。明神池は海水を利用した池で、地元の漁師が近くにある神社へのお供え物として魚を放流することがある。その裏の森の中には、岩だらけの林床の裂け目から冷たい空気が吹き出す「風穴」がある。冬の間、この裂け目の奥深くに濃くなった冷気が入り込み、暖かくなると密度が落ちて裂け目から流れ出し、このエリアの気温が下がる。真夏でも気温は 15 度前後を保つ。

アクセス：JR 東萩駅または萩バスセンターから防長バスで「越ヶ浜バス停」（約 20 分）、徒歩約 40 分。萩バスセンターからタクシーで 20 分。

Google マップのリンクは[こちら](#)